

平成21年2月定例県議会提出

**平成20年度  
沖縄県教育委員会の点検・評価に  
関する報告書（案）  
（平成19年度対象）**

**沖縄県教育委員会**

# 報 告 書

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 27 条の規定に基づき、平成 19 年度における沖縄県教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価の結果を次のとおり報告します。

平成 21 年 2 月

沖縄県教育委員会委員長 比 嘉 梨 香

## まえがき

平成 19 年 6 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされました。

そのため、県教育委員会においては、効果的な教育行政の推進に資するとともに、県民に対して教育行政についての説明責任を果たすため、「教育委員会の点検・評価」を実施しました。点検・評価に当たっては、法の趣旨を踏まえて、第 2 次沖縄県教育推進計画に基づき、次の平成 19 年度政策目標について点検・評価を実施し、報告書にまとめました。

No	政策目標
1	潤いと生きがいのある生涯学習社会の形成
2	自ら学ぶ意欲を育む学校教育の充実
3	国際社会に生きる人材及び情報活用能力の育成
4	豊かな心を持ち、夢・実行力のある青少年の健全育成
5	家庭・地域の教育機能の活性化
6	健康な体をつくり県民が輝くスポーツの振興
7	豊かな感性を育む文化の振興
8	新しい時代を展望した教育行政の充実

# 目 次

I 点検・評価の概要	1
II 平成19年度政策目標についての点検・評価	
1 潤いと生きがいのある生涯学習社会の形成	3
2 自ら学ぶ意欲を育む学校教育の充実	6
3 国際社会に生きる人材及び情報活用能力の育成	14
4 豊かな心を持ち、夢・実行力のある青少年の健全育成	17
5 家庭・地域の教育機能の活性化	20
6 健康な体をつくり県民が輝くスポーツの振興	24
7 豊かな感性を育む文化の振興	28
8 新しい時代を展望した教育行政の充実	31
III 学識経験者の意見	34

# I 点検・評価の概要

## 1 点検・評価結果

平成 20 年度の沖縄県教育委員会の点検・評価は、第 2 次沖縄県教育推進計画に基づいて実施した。その中で、政策目標の評価対象指標（30 指標）については、目標値を達成した指標が、「生涯学習推進体制組織の設置率」「県・市町村の講座の修了者数」「就職内定率（高校）」等、14 指標で、目標値に達成できなかった指標が、「高校進学率」「大学進学率」「中学校達成度テスト」等、16 指標である。また、22 項目の施策について評価した結果、A 評価（妥当）が 2 件、B 評価（ほぼ妥当）が 20 件で、C 評価（一部見直し）及び D 評価（全面見直し）はなかった。

## 2 これまでの実績

- (1) 平成 17 年 6 月に「おきなわ県民カレッジ」事業を立ち上げて以降、カレッジへの入学者、連携講座数は増えており、県・市町村における講座の修了者も着実に増えている。
- (2) 本県学力向上対策は、昭和 63 年度から取り組んでいる。その間、小中学校における達成度テストの平均得点の上昇、全県的な読書の取組による読書量の増加、さらにスポーツ面、文化面での全国レベルの活躍などの成果を上げている。
- (3) 小学校における英語活動は全ての小学校で行われている。今後も国際化に対応した学校教育の推進に当たっては、小学校における国際理解教育や英語活動の充実と指導力の向上を図っていく必要がある。
- (4) 県民一人あたりの図書貸出冊数は、概ね順調に目標を達成している。「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成 13 年）や「文字・活字文化振興法」（平成 17 年）の施行等により読書活動への社会の関心は高まっている。
- (5) 平成 17 年度から、総合型地域スポーツクラブ育成アドバイザーを配置したことにより、県民が主体的に実施し活動する総合型地域スポーツクラブ数は増加している。県立社会体育施設利用者数は、目標を上回る成果を上げており、全国スポーツ・レクリエーション祭については、毎年 160 名程度を派遣している。

## 3 課題

- (1) 県民が生涯の各期において、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価され、学んだことが社会に生かせるような生涯学習社会の形成をめざして、生涯学習推進体制の整備、学習機会の提供等生涯学習の一層の振興を図る必要がある。
- (2) 生涯にわたる学習の基礎を培い、豊かな心を持ち、たくましく生きる人材を育成するためには、その基礎・基盤となる学校教育の役割は極めて大きく、教育改革に積極的に取り組みつつ、子どもたちの能力と個性が発揮できる環境整備を進めていく必要がある。
- (3) 国際化、グローバル化が急速に進む今日、国際交流活動や外国人との交わりにおいて、国際共通語となっている英語によるコミュニケーション能力の向上が強く求められている。
- (4) 都市化、少子化、核家族化、地域における人間関係の希薄化等が家庭や地域社会の教育力の低下をもたらしているとの指摘がある。このようなことも原因・背景となって、いじめや暴力行為、薬物乱用、性に関する非行、児童虐待等の解決すべき多くの課題が派生している。

- (5) 県民の生き生きとした社会教育活動を支援し、時代のニーズに即した学習活動に対応するためには、今後とも市町村と連携し社会教育基盤の整備を図る必要がある。
- (6) 県民が、それぞれのライフステージにおいて、健康を保持増進するため、日常生活の中にスポーツを取り入れることのできる環境を整備・拡充する必要がある。また、県民の活力の高揚を図るため、競技スポーツの振興をめざし、スポーツ団体等の育成・強化、指導者の養成・確保に努める必要がある。
- (7) 現在、県内に所在する各種の文化財について、調査、保存整備、保存管理、伝承者養成等の事業を実施するとともに、新たな文化財の指定や文化財の公開及び活用に努めているところであり、県民の文化財や芸術文化に対する意識を啓発して、心豊かで潤いのある生活が営めるよう特色ある文化の振興を図る必要がある。

#### 4 平成21年度施策への反映

今年度は、国の教育振興基本計画を踏まえて、第3次沖縄県教育推進計画改訂版（沖縄県教育振興基本計画）を策定中であり、今回の点検・評価結果を考慮に入れて、平成21年度の施策に反映させたい。

## Ⅱ 平成19年度政策目標についての点検・評価

### 政策目標 1 潤いと生きがいのある生涯学習社会の形成

#### 1 成果指標及びその達成状況等

番号	成果指標名	区分 (増加目標)		基準年・値	第2次分野別計画			10年後	
					1年め	2年め	3年め		
			単 位	平成13年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成23年度	
1	生涯学習推進体制組織の設置率	目標値	%			31.6	38.3	45.0	60.0
		実績		25.0	32.8	32.8	45.0		
		基準値増減 M			7.8	7.8	20.0		
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合		55.6%	72.9%	72.9%	100%		
		増減 達成度 (%) P M / (年度目標値 - 基準値)			118.2%	58.6%	100%		
番号	成果指標名	区分 (増加目標)		基準年・値	第2次分野別計画			10年後	
			単 位	平成13年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成23年度	
2	県・市町村の講座の修了者数	目標値	人/年			29,584	32,292	35,000	40,000
		実績		26,876	29,231	42,549	59,793		
		基準値増減 M			2,355	15,673	32,917		
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合		76.8%	83.5%	121.6%	170.8%		
		増減 達成度 (%) P M / (年度目標値 - 基準値)			87.0%	289.4%	405.2%		

評価対象施策 (1) 生涯学習推進体制の充実

1 施策の概要

県民の生涯にわたる学習活動を推進するため、生涯学習の視点に立って、家庭教育、学校教育、社会教育のそれぞれの教育機能の充実を図るとともに、相互の連携を図りつつ、多様な学習活動のための総合的な施策を展開する。

2 施策の評価

評価項目	評価の観点	評価項目の点数	合計点数													
(1) 県が関与することの必要性	・必要性が高い(2点) ・普通(1点) ・県の関与のあり方について検討が必要(0点)	2	7													
(2) 分野別計画どおりに施策展開に取り組んだか	・取り組んだ(2点) ・概ね取り組んだ(1点) ・取り組みが不十分(0点)	1														
(3) 成果指標の達成状況(P)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標番号</th> <th>(P)の点数</th> <th>指標点数平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4</td> <td rowspan="5">4.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標番号		(P)の点数	指標点数平均	1	4	4.0								
指標番号	(P)の点数	指標点数平均														
1	4	4.0														
<b>評価結果</b> 8点:A(妥当) 7~6点:B(ほぼ妥当) 5~4点:C(一部見直し) 3点以下:D(全面見直し)			B													

3 施策の評価結果説明(理由、課題等)

第2次生涯学習推進計画の施策の点検・見直しを行い、「第2次沖縄県生涯学習推進計画(後期)ー平成19年度~23年度ー」を作成した。

推進本部機能の活性化を図り、総合組織としての実働性を高めることが課題となる。

4 平成21年度の施策展開方針

総合行政としての実効ある県行政システムの構築。

行政及び関係機関・団体等のネットワークの構築。

第5期沖縄県生涯学習審議会の開催。



評価対象施策 (2) 県民の学習ニーズに応える学習機会の拡充

1 施策の概要

社会の著しい変化に伴い、人々の学習意欲が新たな高まりをみせ、個人や団体等による自主的な学習活動が行われている。これらの学習ニーズ及び県民の生涯学習の各時期における人間形成並びに学習課題に応えるため、学習情報及び学習機会の提供、学習相談体制の整備、学習活動への積極的な支援に努め、生涯学習社会の形成を図る。

2 施策の評価

評価項目	評価の観点	評価項目の点数	合計点数													
(1) 県が関与することの必要性	・必要性が高い(2点) ・普通(1点) ・県の関与のあり方について検討が必要(0点)	2	7													
(2) 分野別計画どおりに施策展開に取り組んだか	・取り組んだ(2点) ・概ね取り組んだ(1点) ・取り組みが不十分(0点)	1														
(3) 成果指標の達成状況(P)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標番号</th> <th>(P)の点数</th> <th>指標点数平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>4</td> <td rowspan="5">4.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標番号		(P)の点数	指標点数平均	2	4	4.0								
指標番号	(P)の点数	指標点数平均														
2	4	4.0														
<b>評価結果</b> 8点:A(妥当) 7~6点:B(ほぼ妥当) 5~4点:C(一部見直し) 3点以下:D(全面見直し)			<b>B</b>													

3 施策の評価結果説明(理由、課題等)

市町村を含めた県全体の講座終了者数については、当該年度では、目標を達成している。「沖縄県生涯学習情報システム」の利用促進のため整備充実に努めた。

課題としては、「おきなわ県民カレッジ」をさらに県民に広報すること、国・県市町村機関との連携講座をさらに充実させることなどが挙げられる。

4 平成21年度の施策展開方針

おきなわ県民カレッジの主催講座により県民に学習機会を提供する。

各機関との連携強化に努め、連携講座を充実し、全県的な生涯学習の広がりを図る。学習成果の活用については、指導者養成講座等を実施し、単位を積み重ねた受講者の中から指導者として活用できるよう人材の育成を促進していく。

沖縄県生涯学習情報提供システムについて、情報提供者の活用を促進し、未活用の機関に対してはその有用性について広く広報し、運用をサポートすることで、活用の普及と情報提供の充実を図る。

政策目標 2 自ら学ぶ意欲を育む学校教育の充実

1 成果指標及びその達成状況等

番号	成果指標名	区分 (増加目標)		基準年・値	第2次分野別計画			10年後
					1年め	2年め	3年め	
			単位	平成13年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成23年度
1	高校進学率	目標値	%		96.0	96.3	96.5	97.3
		実績		92.7	95.4	95.2	94.8	
		基準値増減 M			2.7	2.5	2.1	
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合		96.1%	98.9%	98.7%	98.2%	
		増減 達成度 (%) P M / (年度目標値 - 基準値)			81.8%	69.4%	55.3%	
2	大学等進学率	目標値	%		32.0	33.5	35.0	40.0
		実績		31.1	31.1	33.6	33.5	
		基準値増減 M			0.0	2.5	2.4	
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合		88.9%	88.9	96.0%	95.7%	
		増減 達成度 (%) P M / (年度目標値 - 基準値)			0.0%	104.2%	61.5%	
3	就職内定率 (高校)	目標値	%		80.0	85.0	85.0	90.0
		実績		56.8	84.1	86.4	86.7	
		基準値増減 M			27.3	29.6	29.9	
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合		66.8%	98.9%	101.6%	102.0%	
		増減 達成度 (%) P M / (年度目標値 - 基準値)			117.7%	105.0%	106.0%	
4	小学校達成度テスト	目標値	点		40.0	40.0	40.0	40.0
		実績		41.3	43.1	41.0	41.2	
		基準値増減 M			1.8	-0.3	-0.1	
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合		103.3%	107.8%	102.5%	103.0%	
		増減 達成度 (%) P 年度実績 / 年度目標値			107.8%	102.5%	103.0%	
5	中学校達成度テスト	目標値	点		40.0	40.0	40.0	40.0
		実績		36.1	33.8	32.4	31.4	
		基準値増減 M			-2.3	-3.7	-4.7	
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合		90.3%	84.5%	81.0%	78.5%	
		増減 達成度 (%) P 年度実績 / 年度目標値			84.5%	81.0%	78.5%	

番号	成果指標名	区分 (増加目標)		基準年・値	第2次分野別計画			10年後
		単位	平成13年度		1年め	2年め	3年め	
6	児童生徒の 体力・運動 能力テスト (小中高平均)	目標値	点 (50点満点)	48.0	48.0	48.5	49.3	49.8
		実績			47.6	48.2	48.4	
		基準値増減 M		-0.4	0.2	0.4		
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合		97.4%	96.6%	97.8%	98.2%	
		増減 達成度 (%) P M / (年度目標値 - 基準値)				40.0%	30.8%	
番号	成果指標名	区分 (維持目標)		基準年・値	第2次分野別計画			10年後
単位	平成13年度	1年め	2年め		3年め	平成23年度		
7	中学生社会 体験事業実 施率	目標値	%	77.8	100.0	100.0	100.0	100.0
		実績			100.0	100.0	100.0	
		基準値増減 M		22.2	22.2	22.2		
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合		77.8%	100.0%	100.0%	100.0%	
		増減 達成度 (%) P 年度実績 / 年度目標値			100.0%	100.0%	100.0%	
番号	成果指標名	区分 (維持目標)		基準年・値	第2次分野別計画			10年後
単位	平成13年度	1年め	2年め		3年め	平成23年度		
8	就業体験実 施率	目標値	%	42.6	100.0	100.0	100.0	100.0
		実績			100.0	100.0	100.0	
		基準値増減 M		57.4	57.4	57.4		
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合		42.6%	100.0%	100.0%	100.0%	
		増減 達成度 (%) P 年度実績 / 年度目標値			100.0%	100.0%	100.0%	
番号	成果指標名	区分 (増加目標)		基準年・値	第2次分野別計画			10年後
単位	平成13年度	1年め	2年め		3年め	平成23年度		
9	中・高等学 校の運動部 加入率	目標値	%	49.0	51.0	51.5	52.0	54.0
		実績			51.4	51.7	51.0	
		基準値増減 M		2.4	2.7	2.0		
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合		94.2%	98.8%	99.4%	98.1%	
		増減 達成度 (%) P M / (年度目標値 - 基準値)			120.0%	108.0%	66.7%	

評価対象施策 (1) 豊かな心を培う教育の推進

1 施策の概要

子どもたち一人一人が人間として調和のとれた成長を遂げることができる環境を整備し、とりわけ、「生きる力」の礎ともいえるべき、生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、美しいものや自然に感動する心などの豊かな人間性の育成を目指し、心の教育の充実に努める。

2 施策の評価

評価項目	評価の観点	評価項目の点数	合計点数													
(1) 県が関与することの必要性	・必要性が高い(2点) ・普通(1点) ・県の関与のあり方について検討が必要(0点)	2	7													
(2) 分野別計画どおりに施策展開に取り組んだか	・取り組んだ(2点) ・概ね取り組んだ(1点) ・取り組みが不十分(0点)	1														
(3) 成果指標の達成状況(P)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標番号</th> <th>(P)の点数</th> <th>指標点数平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7</td> <td>4</td> <td rowspan="5">4.0</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標番号		(P)の点数	指標点数平均	7	4	4.0	8	4						
指標番号	(P)の点数	指標点数平均														
7	4	4.0														
8	4															
<b>評価結果</b> 8点:A(妥当) 7~6点:B(ほぼ妥当) 5~4点:C(一部見直し) 3点以下:D(全面見直し)			B													

3 施策の評価結果説明(理由、課題等)

児童生徒一人一人に豊かな心を育むため、豊かな体験活動推進事業(地域推進、地域間交流、長期宿泊体験等)を推進した。また、職場体験活動の充実を図るため、「夢にチャレンジ社会体験」事業に取り組んだ。その結果、中学生の社会体験実施率や就業体験実施率は、100%に達しており成果を上げている。さらに、人権教育、平和教育、幼稚園教育等の研究指定を行うなど、その研究成果の普及に努めた。

4 平成21年度の施策展開方針

子どもたちが豊かな人間性や社会性を育むため学校教育において、様々な体験をとおして、心の教育の充実に努める。また、豊かな体験活動推進事業及び豊かな進路連携推進事業を推進し、職場体験活動や人権教育、平和教育、幼稚園教育等の充実に努める。

評価対象施策 (2) 確かな学力を身につける教育の推進

1 施策の概要

学校の教育活動全体を通じて、幼児児童生徒一人一人にこれからの社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を養い、自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」の育成を図る。

また、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開するとともに、生涯にわたる学習の基礎を培い、豊かな心を持ち、たくましく生きる人材を育成するため、基礎・基本の確実な定着を図り、個を生かす教育の充実に努める。

2 施策の評価

評価項目	評価の観点	評価項目の点数	合計点数													
(1) 県が関与することの必要性	・必要性が高い(2点) ・普通(1点) ・県の関与のあり方について検討が必要(0点)	2	6													
(2) 分野別計画どおりに施策展開に取り組んだか	・取り組んだ(2点) ・概ね取り組んだ(1点) ・取り組みが不十分(0点)	1														
(3) 成果指標の達成状況(P)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標番号</th> <th>(P)の点数</th> <th>指標点数平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td rowspan="5">3.0</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標番号		(P)の点数	指標点数平均	1	2	3.0	4	4	5	3				
指標番号	(P)の点数	指標点数平均														
1	2	3.0														
4	4															
5	3															
<b>評価結果</b> 8点:A(妥当) 7~6点:B(ほぼ妥当) 5~4点:C(一部見直し) 3点以下:D(全面見直し)			<b>B</b>													

3 施策の評価結果説明(理由、課題等)

児童生徒の知・徳・体の調和のとれた人間の育成を目指し、学力向上主要施策に基づく学力向上対策を推進した。その結果、小学校の達成度テストにおいては目標値より1.2ポイント上回るなど、各学校における個に応じた指導などの指導方法等の工夫・改善が図られた。しかしながら、中学校における達成度テストの結果においては、目標値を8.6ポイント下回っており、各学校における授業改善をさらに推進する必要がある。

また、全国学力・学習状況調査の結果においては、本県の小・中学校の平均正答率はすべての教科で全国平均を下回っており、とりわけ各教科における知識・技能を「活用する力」については、全国との差が大きく、喫緊の課題となっている。

4 平成21年度の施策展開方針

児童生徒の確かな学力などの「生きる力」の育成を図るために、学力向上主要施策「夢・にぬふぁ星プランII」と、その補完版として策定した「確かな学力の向上」支援プランにもとづいた学力向上対策を推進する。

各学校においては、これら施策に基づいて、創意工夫を生かした教育活動を展開し、確かな学力の定着・向上を図る。

評価対象施策 (3) たくましい心と体を育む教育の推進

1 施策の概要

幼児児童生徒がたくましく生きるための心身の健康の保持増進と体力の向上を図り、生涯を通じて運動に親しむ態度の育成や健康で安全な生活を送るための基礎を培う体育・スポーツ、健康教育の充実に努める。

平成22年度全国高等学校総合体育大会の開催に向け、市町村や関係機関・団体と連携し、諸準備業務を推進する。

2 施策の評価

評価項目	評価の観点	評価項目の点数	合計点数													
(1) 県が関与することの必要性	・必要性が高い(2点) ・普通(1点) ・県の関与のあり方について検討が必要(0点)	2	6													
(2) 分野別計画どおりに施策展開に取り組んだか	・取り組んだ(2点) ・概ね取り組んだ(1点) ・取り組みが不十分(0点)	2														
(3) 成果指標の達成状況(P)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標番号</th> <th>(P)の点数</th> <th>指標点数平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6</td> <td>1</td> <td rowspan="5">1.5</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標番号		(P)の点数	指標点数平均	6	1	1.5	9	2						
指標番号	(P)の点数	指標点数平均														
6	1	1.5														
9	2															
<b>評価結果</b> 8点:A(妥当) 7~6点:B(ほぼ妥当) 5~4点:C(一部見直し) 3点以下:D(全面見直し)			<b>B</b>													

3 施策の評価結果説明(理由、課題等)

児童生徒のたくましい心と体を育むため、研究指定校や教職員対象の各種研修会等を実施し、学校体育、保健教育、安全教育、学校給食の充実に努め、学校・地域保健連携推進事業及び学校体育推進事業等の推進を図った。特に、安全教育では、子ども安全パトロール運動・地域安全マップづくり運動・安全教育推進運動を実施して、実効性のある安全対策を行った。

また、児童生徒の体力・運動能力の実態及び特徴を的確に把握するため新体力テストを実施し、体力向上への意識の高揚を図った結果、昨年と比べ0.2ポイント上昇した。

「平成22年度全国高校総体」の開催に向け、県準備委員会を中心に市町村や関係機関・団体と連携し、諸準備を進めるとともに、選手強化等の事業を推進した。

4 平成21年度の施策展開方針

児童生徒の心身の健康の保持増進と体力の向上を図るため、子どもの健康を守る地域専門家総合連携事業、学校体育推進事業等の充実強化に努める。また、食に関する指導推進委員会及び児童生徒体力向上推進委員会等で食に関する指導の充実、体力向上に向けた施策を引き続き展開する。なお、全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の分析・考察を行い施策の推進に役立てる。

「平成22年度全国高校総体沖縄県実行委員会」を中心に、市町村や関係機関・団体と連携し、大会開催に向けた諸業務を行うとともに、リハーサル大会の開催や選手強化等の事業を推進する。

評価対象施策 (4) 個性を大切にす教育の推進

1 施策の概要

教育は「自分さがしの旅」を扶ける営みであり、幼児児童生徒は、教育を通じて社会の中で生きていくための基礎・基本を身に付けるとともに、個性を見だし、自らにふさわしい生き方を選択していく。こうした一連の過程で試行錯誤を経ながら様々な体験を積み重ね、自己実現を目指しており、それを的確に支援することが教育の最も重要な使命であるといえる。そのため、幼児児童生徒一人一人の個性や能力を重視し、その伸長を図ることが大切である。

また、「生きる力」を育む上では、一人一人の個性を生かした教育を行うことは極めて重要であり、このような観点から、教育課程の弾力化、指導方法の工夫・改善、特色ある学校づくり等を一層推進する。

2 施策の評価

評価項目	評価の観点	評価項目の点数	合計点数													
(1) 県が関与することの必要性	・必要性が高い (2点) ・普通 (1点) ・県の関与のあり方について検討が必要 (0点)	2	7													
(2) 分野別計画どおりに施策展開に取り組んだか	・取り組んだ (2点) ・概ね取り組んだ (1点) ・取り組みが不十分 (0点)	2														
(3) 成果指標の達成状況 (P)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標番号</th> <th>(P)の点数</th> <th>指標点数平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td rowspan="5">3.0</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	指標番号		(P)の点数	指標点数平均	1	2	3.0	2	2	3	4	4	4	5	3
指標番号	(P)の点数	指標点数平均														
1	2	3.0														
2	2															
3	4															
4	4															
5	3															
<b>評価結果</b> 8点:A(妥当) 7~6点:B(ほぼ妥当) 5~4点:C(一部見直し) 3点以下:D(全面見直し)			<b>B</b>													

3 施策の評価結果説明 (理由、課題等)

各学校の取り組みの強化により就職内定率 (高校) は 86.7 % と目標を達成した。中学生社会体験 (職場体験) は本県キャリア教育の一環として実施され、平成 17 年度からは実施率 100 % となっている。ゆとりある 6 年間の計画的・継続的な中高一貫教育を目指し、本県で初めての併設型中高一貫校が開講した。

4 平成 21 年度の施策展開方針

個に応じた指導の充実に努めるとともに、体験的な学習等の一層の充実を図る。小・中・高校の発達段階に応じた組織的系統的なキャリア教育を推進する。特色ある学校づくりを推進するため、教育課程の一層の弾力化を図るとともに、計画的・継続的な中高一貫教育の改善・充実に努める。特別支援教育では、障害のある幼児児童生徒の教育的ニーズに応じた教育支援を行う。

評価対象施策 (5) 世界と手をつなぐグローバルな教育の推進

1 施策の概要

グローバル化、情報化に対応した国際性豊かな広い視野をもち、よりよい環境づくりや環境保全に配慮できるとともに、諸外国の人々とお互いに理解しあうために、国際交流や国際協力を推進する。そのため、自国の文化や異文化を理解し、相互交流を図る国際理解教育及び総合的、実践的な環境教育を推進する。

2 施策の評価

評価項目	評価の観点	評価項目の点数	合計点数											
(1) 県が関与することの必要性	・必要性が高い(2点) ・普通(1点) ・県の関与のあり方について検討が必要(0点)	2	6											
(2) 分野別計画どおりに施策展開に取り組んだか	・取り組んだ(2点) ・概ね取り組んだ(1点) ・取り組みが不十分(0点)	1												
(3) 成果指標の達成状況(P)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標番号</th> <th>(P)の点数</th> <th>指標点数平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>2</td> <td rowspan="4">3.3</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標番号		(P)の点数	指標点数平均	2	2	3.3	7	4	8	4		
指標番号	(P)の点数	指標点数平均												
2	2	3.3												
7	4													
8	4													
<b>評価結果</b> 8点:A(妥当) 7~6点:B(ほぼ妥当) 5~4点:C(一部見直し) 3点以下:D(全面見直し)			<b>B</b>											

3 施策の評価結果説明(理由、課題等)

国際性豊かな広い視野を育成するとともに、本県高校生とハワイ州高校生の相互理解と友好親善を図るため、「沖縄県・ハワイ州高校生交流事業」、国外の産業分野の見学研修のための「専門(農・工・商・水)高校生国外派遣研修事業」を計画どおり実施した。  
よりよい環境づくりや環境保全に配慮できる人材を育成するため「沖縄県環境教育プログラム」等を活用した環境教育の実施に努めた。

4 平成21年度の施策展開方針

国際社会へ対応するため、異文化を理解する態度や資質、能力の育成を図る。国際理解教育を推進し、沖縄を担う広い視野に立った人材の育成に努める。  
地球規模の視野を持ち、地域社会の身近な環境問題を教材として扱い、体験的な活動を重視した環境教育を推進する。また、指導者養成、自然・奉仕体験活動の実施等に地域人材等の積極的な活用を図る。



評価対象施策 (6) 魅力ある学校づくりの推進

1 施策の概要

児童生徒の能力、興味・関心、進路希望などが多様化している。児童生徒の実態に対応して、各学校がそれぞれの個性を最大限に伸張させるため、児童生徒のニーズを踏まえ、学習の選択幅をできる限り拡大して、多様な特色ある学校づくりを行うことが大切である。

そのため、本県における魅力ある学校づくりのため、中・長期的な視点に立って県立学校編成整備計画を推進する。

また、教育における家庭・学校・地域社会の役割分担と相互の連携や創意工夫を凝らした特色ある学校づくりの必要性の高まりなど、地域に応じた教育の推進、教職員としての使命感や資質・力量・識見を高めるための教職員研修の充実、教育の基礎となる施設・設備の充実を図る。

2 施策の評価

評価項目	評価の観点	評価項目の点数	合計点数											
(1) 県が関与することの必要性	・必要性が高い(2点) ・普通(1点) ・県の関与のあり方について検討が必要(0点)	2	7											
(2) 分野別計画どおりに施策展開に取り組んだか	・取り組んだ(2点) ・概ね取り組んだ(1点) ・取り組みが不十分(0点)	2												
(3) 成果指標の達成状況(P)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標番号</th> <th>(P)の点数</th> <th>指標点数平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>2</td> <td rowspan="4">3.3</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標番号		(P)の点数	指標点数平均	2	2	3.3	3	4	8	4		
指標番号	(P)の点数	指標点数平均												
2	2	3.3												
3	4													
8	4													
<b>評価結果</b> 8点:A(妥当) 7~6点:B(ほぼ妥当) 5~4点:C(一部見直し) 3点以下:D(全面見直し)			B											

3 施策の評価結果説明(理由、課題等)

各学校の取り組みの強化により就職内定率(高校)が向上した。今後とも、教職員の指導力向上を図るとともに、教職員一人一人を支援していくため教職員評価システムを推進する必要がある。多様な児童生徒一人一人の個性を最大限に伸長できる魅力ある学校づくりに向け、県立学校の編成整備等を推進した。引き続き、安全で快適な学習環境を確保するための校舎整備が必要である。

4 平成21年度の施策展開方針

学校評価の実施とその評価結果の公表など、地域に開かれた学校づくりを促進する。学校の活性化と説明責任の明確化を図るために、教職員評価システムを推進するとともに、教員免許更新制に対応する。今後とも、魅力ある学校づくりを進めるとともに、県立学校の編成整備を推進する。時代に対応した安全で快適な学習環境を実現するため、校舎等の整備、充実に努める。

政策目標 3 国際社会に生きる人材及び情報活用能力の育成

1 成果指標及びその達成状況等

番号	成果指標名	区分 (維持目標)		基準年・値	第2次分野別計画			10年後
					1年め	2年め	3年め	
			単位	平成13年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成23年度
1	小学校における英語教育導入校数	目標値	校	0	275	274	274	274
		実績			275	274	274	
		基準値増減 M			275	274	274	
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合			0.0%	100.4%	100.0%	100.0%
		増減 達成度 (%) P 年度実績/年度目標値				100.0%	100.0%	100.0%
番号	成果指標名	区分 (増加目標)		基準年・値	第2次分野別計画			10年後
					1年め	2年め	3年め	
			単位	平成13年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成23年度
2	外国青年招致人数 (ALTのみ)	目標値	人/年	77	115	118	121	180
		実績			110	104	101	
		基準値増減 M			35	38	32	
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合			63.6%	90.9%	86.0%	83.5%
		増減 達成度 (%) P M/(年度目標値-基準値)				86.8%	65.9%	54.5%
番号	成果指標名	区分 (維持目標)		基準年・値	第2次分野別計画			10年後
					1年め	2年め	3年め	
			単位	平成13年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成23年度
3	高校生海外留学生派遣人数	目標値	人/年	50	40	40	40	40
		実績			35	33	28	
		基準値増減 M			-15	-17	-22	
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合			125.0%	87.5%	82.5%	70.0%
		増減 達成度 (%) P 年度実績/年度目標値				87.5%	82.5%	70.0%
番号	成果指標名	区分 (維持目標)		基準年・値	第2次分野別計画			10年後
					1年め	2年め	3年め	
			単位	平成13年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成23年度
4	教員のICT活用指導力	目標値	%	53.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		実績			95.1	73.2	75.0	
		基準値増減 M			42.1	20.2	22.0	
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合			53.0%	95.1%	73.2%	75.0%
		増減 達成度 (%) P 年度実績/年度目標値				95.1%	73.2%	75.0%
番号	成果指標名	区分 (逓減目標)		基準年・値	第2次分野別計画			10年後
					1年め	2年め	3年め	
			単位	平成13年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成23年度
5	教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数	目標値	人/台	12.2	5.4	5.4	5.4	5.0
		実績			6.9	6.5	6.4	
		基準値増減 M			-5.3	-5.7	-6.1	
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合			44.3%	78.3%	83.1%	88.5%
		増減 達成度 (%) P M/(年度目標値-基準値)				77.9%	83.8%	85.3%

評価対象施策 (1) 国際社会に活躍する人材育成の推進

1 施策の概要

国際化・情報化へ対応した学校教育を推進するに当たって、本県における地域特性を生かした学術・平和・国際交流拠点の形成に努めるとともに、国際性豊かな視野の広い人材の育成を図る。

2 施策の評価

評価項目	評価の観点	評価項目の点数	合計点数															
(1) 県が関与することの必要性	・必要性が高い (2点) ・普通 (1点) ・県の関与のあり方について検討が必要 (0点)	2	7															
(2) 分野別計画どおりに施策展開に取り組んだか	・取り組んだ (2点) ・概ね取り組んだ (1点) ・取り組みが不十分 (0点)	2																
(3) 成果指標の達成状況 (P)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標番号</th> <th>(P)の点数</th> <th>指標点数平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4</td> <td rowspan="3">3.0</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標番号		(P)の点数	指標点数平均	1	4	3.0	2	2	3	3						
指標番号	(P)の点数	指標点数平均																
1	4	3.0																
2	2																	
3	3																	
<b>評価結果</b> 8点:A(妥当) 7~6点:B(ほぼ妥当) 5~4点:C(一部見直し) 3点以下:D(全面見直し)			B															

3 施策の評価結果説明 (理由、課題等)

小学校における英語活動はすべての学校で行われ目標値を達成した。今後とも、国際理解教育や英語活動の充実と指導力の向上を図る必要がある。

外国青年招致人数は、目標値には達していない状況にあり、外国語教育の充実・改善を図るため、招致人数の増が必要である。また、高校生海外留学生派遣についても、国際性豊かな人材を育成するため派遣人数の増が必要である。

4 平成21年度の施策展開方針

「小中高マスターイングリッシュ推進事業」により、小学校から高等学校まで継続した英語教育の推進及び実践的コミュニケーション能力の育成を図る。「語学指導を行う外国青年招致事業」の拡充・活用を一層推進する。本県の学術文化及び国際交流の推進を担う国際性豊かな人材を育成するために、高校生、教員等を諸外国に派遣する。

評価対象施策 (2) 情報化に対応した教育の推進

1 施策の概要

急速に変化し進展する高度情報通信社会及び国際社会の中で、本県の地域的特色を生かし、国際性豊かな視野の広さと、情報及び情報手段を主体的に選択し活用できる人材の育成に努める。

2 施策の評価

評価項目	評価の観点	評価項目の点数	合計点数													
(1) 県が関与することの必要性	・ 必要性が高い (2点) ・ 普通 (1点) ・ 県の関与のあり方について検討が必要 (0点)	2	7													
(2) 分野別計画どおりに施策展開に取り組んだか	・ 取り組んだ (2点) ・ 概ね取り組んだ (1点) ・ 取り組みが不十分 (0点)	2														
(3) 成果指標の達成状況 (P)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標番号</th> <th>(P)の点数</th> <th>指標点数平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>3</td> <td rowspan="5">3.0</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標番号		(P)の点数	指標点数平均	4	3	3.0	5	3						
指標番号	(P)の点数	指標点数平均														
4	3	3.0														
5	3															
<b>評価結果</b> 8点:A(妥当) 7~6点:B(ほぼ妥当) 5~4点:C(一部見直し) 3点以下:D(全面見直し)			<b>B</b>													

3 施策の評価結果説明 (理由、課題等)

第2次沖縄県教育情報化推進計画に基づく、学校のICT環境の整備の目標達成状況について、県立学校においては、ほぼ目標を達成しているが、公立小中学校においては、地域間に格差がある。「教員のICT活用指導力」については、全5分野で全国3位になり成果を挙げている。学校ホームページについては、県立学校は100%、小中学校においても、9割以上が開設しているが、ホームページの管理・更新に課題がある。

4 平成21年度の施策展開方針

平成21年度から第3次沖縄県教育情報化推進計画が新たに実行される。

第2次推進計画の反省を踏まえ、ICT環境の整備及び充実、教育のICT指導力の向上、ICT教育の充実、校務の情報化、へき地教育の情報化等、新たな目標をの実現に向け、教育の情報化を推進する。

政策目標 4 豊かな心を持ち、夢・実行力のある青少年の健全育成

1 成果指標及びその達成状況等

番号	成果指標名	区分 (増加目標)		基準年・値	第2次分野別計画			10年後
		単位			1年め	2年め	3年め	
				平成13年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成23年度
1	青少年の地域活動体験活動への参加数	目標値	人/年		92,866	109,733	126,600	146,000
		実績		76,000	123,000	139,900	129,000	
		基準値増減 M			47,000	63,900	53,000	
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合		60.0%	97.2%	110.5%	101.9%	
		増減 達成度 (%) P M/(年度目標値-基準値)			278.7%	189.4%	104.7%	
番号	成果指標名	区分 (増加目標)		基準年・値	第2次分野別計画			10年後
		単位		平成13年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成23年度
2	学校支援ボランティア活用校	目標値	%		80.8	86.9	93.0	95.0
		実績		74.8%	88.6	83.6	89.1	
		基準値増減 M			13.8	8.8	14.3	
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合		80.4%	95.3%	89.9%	95.8%	
		増減 達成度 (%) P M/(年度目標値-基準値)			230.0%	72.7%	78.6%	

評価対象施策 (1) 健やかな青少年を育む地域活動・体験活動の拡充

1 施策の概要

豊かな心を持ち、夢、実行力のある青少年を育成するため、学校・家庭・地域社会が連携を図りながら、社会奉仕体験活動や自然体験活動等の機会を拡充するなど、青少年の自己の確立と社会の一員としての成長を支援する。

2 施策の評価

評価項目	評価の観点	評価項目の点数	合計点数													
(1) 県が関与することの必要性	・必要性が高い(2点) ・普通(1点) ・県の関与のあり方について検討が必要(0点)	1	7													
(2) 分野別計画どおりに施策展開に取り組んだか	・取り組んだ(2点) ・概ね取り組んだ(1点) ・取り組みが不十分(0点)	2														
(3) 成果指標の達成状況(P)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標番号</th> <th>(P)の点数</th> <th>指標点数平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4</td> <td rowspan="5">4.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標番号		(P)の点数	指標点数平均	1	4	4.0								
指標番号	(P)の点数	指標点数平均														
1	4	4.0														
<b>評価結果</b> 8点:A(妥当) 7~6点:B(ほぼ妥当) 5~4点:C(一部見直し) 3点以下:D(全面見直し)			B													

3 施策の評価結果説明(理由、課題等)

「放課後子ども教室推進事業」では、学習、スポーツ・文化、交流活動等様々な体験活動を実施し、「次代を担う青少年育成推進事業」では高校生を中心とした国際文化交流や世界遺産の体験活動等、学校間を越えた活動を実施した。

豊かな心を持ち、夢・実行力のある青少年を育成するためには、学校・家庭・地域・社会が連携を図りながら、地域における体験活動等をさらに拡充させていく必要がある。

4 平成21年度の施策展開方針

「放課後子ども教室推進事業」や「次代を担う青少年育成推進事業」をとおり、学校・家庭・地域社会と連携を図りながら、青少年に様々な体験活動の機会を拡充し、青少年の自己の確立と社会の一員としての成長を支援する施策を展開する。

評価対象施策 (2) ユイマール精神でつなぐ学校・家庭・地域社会の連携

1 施策の概要

健やかな青少年を育成するため、学校と家庭の連携をはじめ、地域住民やPTA等の関係機関・団体、企業、民間教育事業者、諸団体等地域社会に幅広く連携の輪を広げ、社会環境の浄化や非行防止に努めるとともに、ユイマール精神を生かした地域の教育力の活性化に努める。

また、学校教育と社会教育が重なるところに、新しい活動の機会と場をつくり、学校と地域社会がその成果を共有する学社融合の取り組みを推進する。

2 施策の評価

評価項目	評価の観点	評価項目の点数	合計点数													
(1) 県が関与することの必要性	・必要性が高い(2点) ・普通(1点) ・県の関与のあり方について検討が必要(0点)	2	8													
(2) 分野別計画どおりに施策展開に取り組んだか	・取り組んだ(2点) ・概ね取り組んだ(1点) ・取り組みが不十分(0点)	2														
(3) 成果指標の達成状況(P)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標番号</th> <th>(P)の点数</th> <th>指標点数平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4</td> <td rowspan="5">3.5</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標番号		(P)の点数	指標点数平均	1	4	3.5	2	3						
指標番号	(P)の点数	指標点数平均														
1	4	3.5														
2	3															
<b>評価結果</b> 8点:A(妥当) 7~6点:B(ほぼ妥当) 5~4点:C(一部見直し) 3点以下:D(全面見直し)			A													

3 施策の評価結果説明(理由、課題等)

非行等の問題を抱える青少年の立ち直り支援や学校支援ボランティア事業において、地域住民やNPO、社会教育関係団体、ボランティア団体等の人材を活用し、多様な体験活動や社会活動を通して、青少年の健全育成や地域教育力の向上、学校教育の活性化や特色ある学校づくりのための支援に努めた。

青少年に関わる地域の大人たちの参加促進や継続的な関わり、学校と地域を結ぶコーディネーターの育成が重要となる。

4 平成21年度の施策展開方針

各中学校区において学校支援地域本部を設置し、地域全体(ボランティア)で学校教育を支援する体制づくりを推進する。同時に地域コーディネーターの育成やボランティアの資質向上を図る施策を展開する。また、「御万人すりていクリーン・グリーン・グレイシャス運動」において、各地域の社会教育関係団体、学校教育関係機関・団体が中心となり、すべての地域住民が参加するクリーン活動や御万人のふれあい活動等を通して、「地域の子どもは地域で育てる」気運の醸成を図る。

政策目標 5 家庭・地域の教育機能の活性化

1 成果指標及びその達成状況等

番号	成果指標名	区分 (増加目標)		基準年・値	第2次分野別計画			10年後
					1年め	2年め	3年め	
		単位	平成13年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成23年度	
1	図書貸出冊数(県民一人当たり)	目標値	冊/年		3.2	3.4	3.6	4.0
		実績		3.0	3.5	3.4	3.3	
		基準値増減 M			0.5	0.4	0.3	
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合		83.3%	97.2%	94.4%	91.7%	
		増減 達成度 (%) P M/(年度目標値-基準値)			250.0%	100.0%	50.0%	
2	社会教育指導者等養成講座の受講者数	目標値	人/年		2,400	2,500	2,600	2,800
		実績		2,300	1,116	1,576	1,749	
		基準値増減 M			-1,184	-724	-551	
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合		88.5%	42.9%	60.6%	67.3%	
		増減 達成度 (%) P M/(年度目標値-基準値)			-1,184%	-362.0%	-183.7%	
3	家庭教育講座、研修会への参加者数	目標値	人/年		3,762	5,081	6,400	6,900
		実績		2,444	32,806	42,040	33,349	
		基準値増減 M			30,362	39,596	30,905	
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合		38.2%	512.6%	656.9%	521.1%	
		増減 達成度 (%) P M/(年度目標値-基準値)			2303.6%	1501.6%	781.2%	



評価対象施策 (1) 生き生きした活動を支える社会教育基盤の整備・充実

1 施策の概要

社会教育の充実を図るため、社会教育施設・設備の設置・改善や社会教育指導者の養成、確保など社会教育基盤の整備・充実に努める。

2 施策の評価

評価項目	評価の観点	評価項目の点数	合計点数											
(1) 県が関与することの必要性	・必要性が高い(2点) ・普通(1点) ・県の関与のあり方について検討が必要(0点)	2	6											
(2) 分野別計画どおりに施策展開に取り組んだか	・取り組んだ(2点) ・概ね取り組んだ(1点) ・取り組みが不十分(0点)	2												
(3) 成果指標の達成状況(P)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標番号</th> <th>(P)の点数</th> <th>指標点数平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td rowspan="4">2.0</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標番号		(P)の点数	指標点数平均	1	2	2.0	2	0	3	4		
指標番号	(P)の点数	指標点数平均												
1	2	2.0												
2	0													
3	4													
<p><b>評価結果</b></p> <p>8点:A(妥当) 7~6点:B(ほぼ妥当) 5~4点:C(一部見直し) 3点以下:D(全面見直し)</p>			<b>B</b>											

3 施策の評価結果説明(理由、課題等)

読書活動関連の法律等が整備され、県においても子どもの読書推進計画を策定し、県民一人当たりの図書貸出冊数は、概ね目標を達成している。社会教育指導者の養成、確保については、PTA、婦人、青年、少年団体等の社会教育指導者の養成・確保・資質向上のための研修を計画的に行っている。今後は、限られた予算の中で成果をあげるために、市町村や関係機関団体等とのより一層の連携・工夫のもとで社会教育の整備・充実が求められている。

4 平成21年度の施策展開方針

社会教育の充実を図るため、社会教育施設・設備の充実・改善や社会教育指導者の養成など、市町村や関係機関団体等と連携し社会教育基盤の整備・充実に努める。

- ア) 県内図書館との連携を推進し、インターネットを活用した図書館情報提供システムの整備に努めるとともに、視聴覚ライブラリーの整備を促進する。
- イ) 県立図書館創立100周年記念事業(平成22年)の一環として、県立図書館の施設設備や蔵書等の充実を図る。
- ウ) PTA、婦人、青年、少年団体等の社会教育指導者の養成・資質向上のための研修を充実させる。

評価対象施策 (2) 時代のニーズに応える社会教育活動の充実

1 施策の概要

県民の学習意欲の高まりや時代の変化に伴う新たな学習需要の増大に応えるため、社会教育施設等における学習活動への積極的参加を促進する。

2 施策の評価

評価項目	評価の観点	評価項目の点数	合計点数													
(1) 県が関与することの必要性	・ 必要性が高い (2点) ・ 普通 (1点) ・ 県の関与のあり方について検討が必要 (0点)	2	6													
(2) 分野別計画どおりに施策展開に取り組んだか	・ 取り組んだ (2点) ・ 概ね取り組んだ (1点) ・ 取り組みが不十分 (0点)	2														
(3) 成果指標の達成状況 (P)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標番号</th> <th>(P)の点数</th> <th>指標点数平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>0</td> <td rowspan="5">2.0</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標番号		(P)の点数	指標点数平均	2	0	2.0	3	4						
指標番号	(P)の点数	指標点数平均														
2	0	2.0														
3	4															
<b>評価結果</b> 8点:A(妥当) 7~6点:B(ほぼ妥当) 5~4点:C(一部見直し) 3点以下:D(全面見直し)			<b>B</b>													

3 施策の評価結果説明 (理由、課題等)

時代の変化に伴うニーズに応えるため、社会教育研究大会、公民館研究大会の実施をとおし、地域における社会教育の実践交流、情報交換を促進することができた。

学習需要の多様化、高度化に対応するとともに、地域の課題に即した学習機会の提供のため、効果的な企画、実施、運営が図られるような研修事業や人権に関する研修についても実施した。

課題としては、新たな学習需要の増大に応えながら、地域における社会教育の振興に資する事業の展開が求められている。

4 平成21年度の施策展開方針

県民の学習意欲の高まりや時代の変化に伴う新たな学習需要の増大に応えるため、社会教育施設等における学習活動への積極的参加を促進する。

ア) 社会教育研究大会の開催などを通して、時代のニーズに応えるため社会教育の実践交流を行い、社会教育の振興を図る。

イ) 生涯学習に関する学習機会を捉えて、人権に関する研修を一層促進する。

評価対象施策 (3) しつけ・心の触れあいのある家庭教育機能の充実

1 施策の概要

家庭は、生涯における人間形成の基盤を培う上で最も重要な役割を持ち、人格形成に大きく影響を及ぼすところである。そのため家庭の教育機能が十分に発揮できるよう支援を強化し、家庭教育の充実に努める。

2 施策の評価

評価項目	評価の観点	評価項目の点数	合計点数													
(1) 県が関与することの必要性	・必要性が高い(2点) ・普通(1点) ・県の関与のあり方について検討が必要(0点)	2	6													
(2) 分野別計画どおりに施策展開に取り組んだか	・取り組んだ(2点) ・概ね取り組んだ(1点) ・取り組みが不十分(0点)	2														
(3) 成果指標の達成状況(P)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標番号</th> <th>(P)の点数</th> <th>指標点数平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>0</td> <td rowspan="5">2.0</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標番号		(P)の点数	指標点数平均	2	0	2.0	3	4						
指標番号	(P)の点数	指標点数平均														
2	0	2.0														
3	4															
<b>評価結果</b> 8点:A(妥当) 7~6点:B(ほぼ妥当) 5~4点:C(一部見直し) 3点以下:D(全面見直し)			B													

3 施策の評価結果説明(理由、課題等)

家庭教育カウンセリング研修会や巡回相談、親子電話相談事業、家庭教育支援総合推進事業(国委託16年度から)を実施した。特に家庭教育支援総合推進事業における講座等により、約3万人が家庭教育について学習することができた。家庭教育カウンセリング研修会や家庭教育支援総合推進事業のリーダー養成講座受講者の、市町村における活用促進が課題である。

4 平成21年度の施策展開方針

子どもを安心して育てられる環境を整備するとともに、親の不安や悩みなどを解決するため、離島での巡回相談や親子電話相談事業、地域のリーダーを対象にした研修会、子育て中の親を対象にした講座等の学習機会や相談体制の充実に努める。

政策目標 6 健康な体をつくり県民が輝くスポーツの振興

1 成果指標及びその達成状況等

番号	成果指標名	区分 (増加目標)		基準年・値 平成13年度	第2次分野別計画			10年後 平成23年度
		単位	単位		1年め 平成17年度	2年め 平成18年度	3年め 平成19年度	
1	県立社会体育施設利用者数	目標値	千人/年	398	415	432	450	1,000
		実績						
		基準値増減 M						
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合						
		増減 達成度 (%) P M/(年度目標値-基準値)						
2	学校体育施設の開放状況	目標値	%	65.5	70.0	73.0	76.0	82.0
		実績						
		基準値増減 M						
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合						
		増減 達成度 (%) P M/(年度目標値-基準値)						
3	沖縄県スポーツ祭の参加者数	目標値	人/回	11,381	12,520	13,510	13,900	14,000
		実績						
		基準値増減 M						
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合						
		増減 達成度 (%) P M/(年度目標値-基準値)						
4	総合型地域スポーツクラブの育成	目標値	団体 (累計)	1	6	11	15	41
		実績						
		基準値増減 M						
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合						
		増減 達成度 (%) P M/(年度目標値-基準値)						

評価対象施策 (1) 県民一人一人が輝く生涯スポーツの推進

1 施策の概要

県民が各々のライフステージにおいて、スポーツに親しむことにより元気で輝く人生を送ることができ、また、地域においてスポーツを気軽に楽しむことができる環境の整備を図るなど、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成に努める。

2 施策の評価

評価項目	評価の観点	評価項目の点数	合計点数											
(1) 県が関与することの必要性	・必要性が高い(2点) ・普通(1点) ・県の関与のあり方について検討が必要(0点)	2	6											
(2) 分野別計画どおりに施策展開に取り組んだか	・取り組んだ(2点) ・概ね取り組んだ(1点) ・取り組みが不十分(0点)	2												
(3) 成果指標の達成状況(P)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標番号</th> <th>(P)の点数</th> <th>指標点数平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4</td> <td rowspan="4">2.0</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	指標番号		(P)の点数	指標点数平均	1	4	2.0	2	0	3	0	4	4
指標番号	(P)の点数	指標点数平均												
1	4	2.0												
2	0													
3	0													
4	4													
<p><b>評価結果</b></p> <p>8点:A(妥当) 7~6点:B(ほぼ妥当) 5~4点:C(一部見直し) 3点以下:D(全面見直し)</p>			<b>B</b>											

3 施策の評価結果説明(理由、課題等)

県民一人一人がそれぞれのライフステージに応じて、日常生活の中にスポーツを取り入れ、健康の保持増進が図られるよう、総合型地域スポーツクラブの創設・育成や県スポレク祭の開催、全国スポレク祭への派遣、学校体育施設の開放、沖縄県・兵庫県友愛野外活動研修等を実施し、県民の生涯スポーツ振興を推進してきた。県民が主体的に実施し活動する総合型地域スポーツクラブの創設・育成は、成果が上がっている。今後とも、関係機関、団体と連携し生涯スポーツ社会の実現に向けて取り組む必要がある。

4 平成21年度の施策展開方針

生涯スポーツ社会の実現に向け、県民がそれぞれのライフステージに応じてスポーツを實踐できるように総合型地域スポーツクラブの創設・育成を促進する。また、県スポレク祭の開催や全国スポレク祭への派遣、学校体育施設の開放、沖縄県・兵庫県友愛野外活動研修等に取り組む。県民のスポーツへの関心が高まり、スポーツへのニーズが多様化・高度化し、それに対応できるスポーツ指導者の養成・育成が必要である。

評価対象施策 (2) 県民に夢と希望を与える競技スポーツの推進

1 施策の概要

国民体育大会等での本県選手の活躍は、県民に夢や感動と自信を与え、活力ある県勢の発展に寄与する。スポーツ活動の一層の普及・振興及び県民のスポーツに対する意欲を高めるため、競技力の向上と競技スポーツの推進に努める。

2 施策の評価

評価項目	評価の観点	評価項目の点数	合計点数													
(1) 県が関与することの必要性	・必要性が高い(2点) ・普通(1点) ・県の関与のあり方について検討が必要(0点)	2	7													
(2) 分野別計画どおりに施策展開に取り組んだか	・取り組んだ(2点) ・概ね取り組んだ(1点) ・取り組みが不十分(0点)	1														
(3) 成果指標の達成状況(P)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標番号</th> <th>(P)の点数</th> <th>指標点数平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4</td> <td rowspan="5">4.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標番号		(P)の点数	指標点数平均	1	4	4.0								
指標番号	(P)の点数	指標点数平均														
1	4	4.0														
<b>評価結果</b> 8点:A(妥当) 7~6点:B(ほぼ妥当) 5~4点:C(一部見直し) 3点以下:D(全面見直し)			<b>B</b>													

3 施策の評価結果説明(理由、課題等)

国民体育大会、九州ブロック大会への選手派遣、スポーツ団体の育成・強化、スポーツ指導者の養成、スポーツ医・科学研究の推進等の事業を実施するとともに、「平成22年度全国高校総体競技力向上推進本部」を設置し、競技力の向上及び支援体制の充実が図られた。

今後、中長期的な競技力の向上を計画的・組織的に取り組んでいく必要がある。

4 平成21年度の施策展開方針

国民体育大会での本県選手の活躍は、県民に夢や感動と自信を与え、活力ある県勢の発展に寄与することから、引き続き国民体育大会や九州ブロック大会への選手派遣を実施する。

また、平成22年度に本県で開催される全国高校総合体育大会における選手の活躍を目指し、「平成22年度全国高校総体競技力向上推進本部」のもと、競技団体・高体連と連携し、ジュニア世代の競技力向上対策事業を展開する。

評価対象施策 (3) 社会体育施設の整備・充実

1 施策の概要

多様化・高度化するスポーツ・レクリエーション活動のニーズに応え、県民の健康・体力の保持増進とスポーツの振興を図るため、社会体育施設の充実を図る。また、平成22年度に本県で開催される全国高校総合体育大会のための施設整備を行う。

2 施策の評価

評価項目	評価の観点	評価項目の点数	合計点数													
(1) 県が関与することの必要性	・必要性が高い(2点) ・普通(1点) ・県の関与のあり方について検討が必要(0点)	2	6													
(2) 分野別計画どおりに施策展開に取り組んだか	・取り組んだ(2点) ・概ね取り組んだ(1点) ・取り組みが不十分(0点)	2														
(3) 成果指標の達成状況(P)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標番号</th> <th>(P)の点数</th> <th>指標点数平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4</td> <td rowspan="5">2.0</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標番号		(P)の点数	指標点数平均	1	4	2.0	3	0						
指標番号	(P)の点数	指標点数平均														
1	4	2.0														
3	0															
<b>評価結果</b> 8点:A(妥当) 7~6点:B(ほぼ妥当) 5~4点:C(一部見直し) 3点以下:D(全面見直し)			B													

3 施策の評価結果説明(理由、課題等)

年次的に奥武山総合運動場の整備を行っている。

平成19年度は、旧水泳プールの解体撤去及び新プールの建築工事を発注した。

平成22年度に本県で開催される全国高校総合体育大会を見据えた施設整備を行う必要がある。

4 平成21年度の施策展開方針

全国高校総合体育大会の開催に向けて、改築・改修した各施設の公認を取得する。

また、各競技会場(県有施設)の備品等を整備する。

政策目標 7 豊かな感性を育む文化の振興

1 成果指標及びその達成状況等

番号	成果指標名	区分 (増加目標)		基準年・値 平成13年度	第2次分野別計画			10年後 平成23年度
		単位			1年め 平成17年度	2年め 平成18年度	3年め 平成19年度	
1	文化財の指定件数	目標値	件(累計)		1,220	1,221	1,260	1,300
		実績		1,202	1,252	1,271	1,288	
		基準値増減 M			50	69	86	
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合		95.4%	99.4%	100.9%	102.2%	
		増減 達成度 (%) P M/(年度目標値-基準値)			277.8%	363.2%	148.3%	
番号	成果指標名	区分 (増加目標)		基準年・値 平成13年度	第2次分野別計画			10年後 平成23年度
		単位			1年め 平成17年度	2年め 平成18年度	3年め 平成19年度	
2	史跡の整備件数	目標値	件/年		14	16	17	18
		実績		14	15	15	15	
		基準値増減 M			1	1	1	
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合		82.4%	88.2%	88.2%	88.2%	
		増減 達成度 (%) P M/(年度目標値-基準値)				50.0%	33.3%	
番号	成果指標名	区分 (増加目標)		基準年・値 平成13年度	第2次分野別計画			10年後 平成23年度
		単位			1年め 平成17年度	2年め 平成18年度	3年め 平成19年度	
3	国立劇場おきなわの入場者数 (平成16年1月開場)	目標値	千人/年			50	50	54
		実績			49	56	56	
		基準値増減 M			49	56	56	
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合		0.0%	98.0%	112.0%	112.0%	
		増減 達成度 (%) P M/(年度目標値-基準値)			147.0%	112.0%	112.0%	



評価対象施策 (1) 文化財の保護と活用

1 施策の概要

本県の地理的位置やさまざまな歴史の変遷を経て醸成されてきた文化財は、県民共有の財産であり、その価値を再認識して、保存・継承・発展させることは、県民の責務である。県民の文化財に対する意識を高め、心豊かな生活が営まれるよう特色ある文化財の保存・整備・活用を図る。

2 施策の評価

評価項目	評価の観点	評価項目の点数	合計点数													
(1) 県が関与することの必要性	・必要性が高い(2点) ・普通(1点) ・県の関与のあり方について検討が必要(0点)	2	6													
(2) 分野別計画どおりに施策展開に取り組んだか	・取り組んだ(2点) ・概ね取り組んだ(1点) ・取り組みが不十分(0点)	1														
(3) 成果指標の達成状況(P)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標番号</th> <th>(P)の点数</th> <th>指標点数平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4</td> <td rowspan="5">2.5</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標番号		(P)の点数	指標点数平均	1	4	2.5	2	1						
指標番号	(P)の点数	指標点数平均														
1	4	2.5														
2	1															
<b>評価結果</b> 8点:A(妥当) 7~6点:B(ほぼ妥当) 5~4点:C(一部見直し) 3点以下:D(全面見直し)			B													

3 施策の評価結果説明(理由、課題等)

首里城周辺の管理委託、県内の文化財の保存整備、史跡・名勝の保存整備等、在外文化財の調査、伝承者養成事業、現状変更の許認可、銃砲刀剣登録、県立埋蔵文化財センター実施の基地内や各地域の埋蔵文化財の発掘調査及び出土品の保存、公開、普及・啓発等概ね予定通り実施できた。なお、文化財保護・活用の更なる充実を図るため、より一層の体制整備の強化が望まれる。

4 平成21年度の施策展開方針

文化財の指定・管理及び保存・整備、史跡・名勝の保存整備等、在外文化財調査、伝承者養成、銃砲刀剣登録、基地内をはじめ各地域の発掘調査や出土品の保存・公開等を継続的に実施するとともに、一般県民への普及・啓発に努める。文化財の活用については、観光等関連部局との調整も検討する。開発事業との調整は、県立埋蔵文化財センターを中心に円滑な推進を図る。

評価対象施策 (2) 文化施設の整備・充実と芸術文化活動の推進

1 施策の概要

国際化、情報化、生涯学習時代の多様化する県民ニーズに応える 21 世紀にふさわしい博物館と優れた美術作品の鑑賞や創作活動を通して県民の情操を豊かにし、地域における芸術文化の拠点となる美術館の複合施設を建設し、平成 19 年 11 月に開館した。

本県芸術文化の振興を図るために、心身の成長期にある児童生徒に優れた芸術を鑑賞する機会を提供する。このことによって豊かな創造性と情操の涵養を図るとともに、学校における文化活動への指導者派遣ならびに学校文化団体の支援を行うなど、芸術文化の充実・発展に努める。

2 施策の評価

評価項目	評価の観点	評価項目の点数	合計点数													
(1) 県が関与することの必要性	・必要性が高い (2 点) ・普通 (1 点) ・県の関与のあり方について検討が必要 (0 点)	2	8													
(2) 分野別計画どおりに施策展開に取り組んだか	・取り組んだ (2 点) ・概ね取り組んだ (1 点) ・取り組みが不十分 (0 点)	2														
(3) 成果指標の達成状況 (P)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標番号</th> <th>(P)の点数</th> <th>指標点数平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>4</td> <td rowspan="5">4.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標番号		(P)の点数	指標点数平均	3	4	4.0								
指標番号	(P)の点数	指標点数平均														
3	4	4.0														
<b>評価結果</b> 8点:A(妥当) 7~6点:B(ほぼ妥当) 5~4点:C(一部見直し) 3点以下:D(全面見直し)			A													

3 施策の評価結果説明 (理由、課題等)

県立博物館新館・美術館の建築工事は平成 18 年度で完了し、平成 19 年 11 月に開館した。開館後は、博物館・美術館は一部指定管理者を導入したことから、県サイドと指定管理者の間でより緊密な連携を行う必要がある。

舞台芸術の鑑賞機会提供事業については、離島・僻地の小中学校からの要望は多く、触れる・体験する等児童生徒の文化芸術への関心および表現能力を高めることに寄与しているので、十分な予算を確保して推進する必要がある。

4 平成 21 年度の施策展開方針

沖縄の自然や歴史、文化、美術等の発信拠点として県立博物館・美術館の積極的な利活用を促進する。また、離島・僻地の児童生徒に優れた舞台芸術鑑賞機会を提供することにより、文化芸術活動への機運の醸成と児童生徒の健全育成を図るとともに、学校における文化芸術活動推進の支援を行う。

政策目標 8 新しい時代を展望した教育行政の充実

1 成果指標及びその達成状況等

番号	成果指標名	区分 (増加目標)		基準年・値	第2次分野別計画			10年後
					1年め	2年め	3年め	
			単位	平成13年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成23年度
1	教育委員と地域住民等との意見交換会の開催数	目標値	回	/	/	/	1	2
		実績					1	
		基準値増減 M					1	
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合					100.0 %	
		増減 達成度 (%) P M/(年度目標値-基準値)					100.0 %	
番号	成果指標名	区分 (維持目標)		基準年・値	第2次分野別計画			10年後
			単位	平成13年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成23年度
2	衛生委員会の設置	目標値	箇所	/	/	/	76	76
		実績					68	
		基準値増減 M					68	
		達成度 (%) 対3年め目標値を100%とした場合					89.5 %	
		増減 達成度 (%) P 年度実績/年度目標値					89.5 %	

評価対象施策 (1) 教育委員会の充実

1 施策の概要

教育委員会制度の目的と精神を踏まえ、教育行政の充実を図るとともに、地域・時代のニーズに対応した教育行政を推進する。

2 施策の評価

評価項目	評価の観点	評価項目の点数	合計点数													
(1) 県が関与することの必要性	・必要性が高い(2点) ・普通(1点) ・県の関与のあり方について検討が必要(0点)	2	7													
(2) 分野別計画どおりに施策展開に取り組んだか	・取り組んだ(2点) ・概ね取り組んだ(1点) ・取り組みが不十分(0点)	1														
(3) 成果指標の達成状況(P)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標番号</th> <th>(P)の点数</th> <th>指標点数平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4</td> <td rowspan="5">4.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標番号		(P)の点数	指標点数平均	1	4	4.0								
指標番号	(P)の点数	指標点数平均														
1	4	4.0														
<b>評価結果</b> 8点:A(妥当) 7~6点:B(ほぼ妥当) 5~4点:C(一部見直し) 3点以下:D(全面見直し)			B													

3 施策の評価結果説明(理由、課題等)

教育委員は、これまでPTA関係者や、公安委員といった関係団体等との意見交換を、年1~2回程度行ってきた。

4 平成21年度の施策展開方針

今後、より現場の意見を反映できるよう、教育委員と地域住民、市町村教育委員、学校教職員と意見交換を年2回程度実施する。

評価対象施策 (2) 福利厚生の実施

1 施策の概要

教職員の安全と健康を確保し、福祉の向上に寄与するとともに、公務の能率的な運営に資するため、福利厚生の実施を図る。

2 施策の評価

評価項目	評価の観点	評価項目の点数	合計点数													
(1) 県が関与することの必要性	・必要性が高い (2点) ・普通 (1点) ・県の関与のあり方について検討が必要 (0点)	2	7													
(2) 分野別計画どおりに施策展開に取り組んだか	・取り組んだ (2点) ・概ね取り組んだ (1点) ・取り組みが不十分 (0点)	2														
(3) 成果指標の達成状況 (P)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標番号</th> <th>(P)の点数</th> <th>指標点数平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>3</td> <td rowspan="5">3.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標番号		(P)の点数	指標点数平均	2	3	3.0								
指標番号	(P)の点数	指標点数平均														
2	3	3.0														
<b>評価結果</b> 8点:A(妥当) 7~6点:B(ほぼ妥当) 5~4点:C(一部見直し) 3点以下:D(全面見直し)			<b>B</b>													

3 施策の評価結果説明 (理由、課題等)

教職員の生涯生活設計を支援するため、生涯生活設計セミナーの開催、介護講座を開催した。教職員住宅の管理運営・維持補修を実施しながら、老朽化で使用を廃止した住宅を解体撤去し適正な管理をおこなうとともに、離島地域での民間住宅の借り上げを実施した。労働安全衛生法に基づき産業医及び衛生管理者を選任し職場における安全衛生管理体制の整備が図られた。

4 平成21年度の施策展開方針

教職員の生涯生活設計を支援するため、生涯生活設計セミナーの開催、介護講座を開催する。労働安全衛生法に基づき県立学校等の産業医及び衛生管理者を選任し職場における安全衛生管理体制の整備を図るとともに、市町村教育委員会に対して、関係法令等の情報提供により労働安全衛生に関する啓発を図る。

### Ⅲ 学識経験者の意見

点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する外部の方のご意見、ご助言をいただきました。

ご意見をいただきました方々は、次のとおりです。

(50音順 敬称略)

氏 名	所 属 等
伊 波 勝 雄	元嘉手納町教育長
金 城 三 和	元那覇教育事務所長
背 戸 博 史	琉球大学生涯学習教育センター教授

## 沖縄県教育委員会の点検・評価について

### 施策1 潤いと生きがいのある生涯学習社会の形成

現代の世相の中で、生きがいを感じながら生活している人は幸せである。県民の生きがいづくりのために、総合政策として生涯学習社会の形成を筆頭に掲げ、推進のための組織体制が年々強化されつつあることは評価できる。その際、県民の各期に応じた生涯学習社会の形成という場合、各期をどう区分し、どのような学習の場を提供するか、今後の検討課題である。それと同時に、県民のそれぞれが自己実現を図るために、生涯学び続けること、そして、それが生きがいづくりにつながることの大切さを幅広く啓蒙する必要がある。特に、これからの学校は、完結教育ではなく、卒業後も学び続けていくよう、生涯学習の視点から学校経営の在り方を検討する必要がある。

### 施策2 自ら学ぶ意欲を育む学校教育の充実

子どもたちが生涯を通じて学び続けていくためには、その基礎となる学力が必要である。それ故に、学校は、子どもたちが社会で生きて働いていくための基礎となる学力を身に付ける最たる場である。そのことに鑑み、昭和63年度から学力向上対策を県民ぐるみで展開し、学力・スポーツ・文化活動等の面で多くの成果を上げたことは高く評価できる。

今年から、「達成度テスト」を見直し、「県学力到達度調査」と銘打ち、全国学力テストに準じて活用力をみる作問の工夫などの即応体制は望ましい学対の方向性を示している。

今後の学力向上対策では、全国・学習状況調査や PISA、TIMSS も見据えながら日々の授業の抜本的な改善策が必要である。その場合、基礎基本の定着を図る反復学習の徹底と授業における知識注入主導から各教科の学び方の指導や知識を活用する授業の在り方等をどう工夫し、展開するかが、大きな課題である。

### 施策3 国際社会に生きる人材及び情報活用能力の育成

資源の乏しい島国沖縄県にとって、世界に開かれた県づくりは重要な施策である。その根幹をなすのが、国際人の育成である。いわゆる国際社会に適応し、国際社会で活躍できる人材の育成は緊急な課題である。施策の中では、「海外交流や派遣事業」は数多く展開されているが、肝心な「国際性豊かな視野の広い人材の育成」の具体策がみえにくい。国際社会では、人・物・情報・文化が国境を越えて地球規模で流通・展開している。このような目まぐるしい国際社会で生き抜くには、世界の情報を瞬時に入手・活用し、自分の意思を伝達できる世界の共通語といわれる英語の実用能力を培う必要がある。

県民待望の「沖縄科学技術大学院大学」の設置が動きだした。世界の知的巨人たちが、沖縄県にやってくる。世界に通用する国際人の育成のためにも、この「大学院大学」のもつ知力をどう活用していくか、早急にその構想と戦略を練る必要がある。

### 施策4 豊かな心を持ち、夢・実行力のある青少年の健全育成

問題を抱える青少年の支援策として、多様な体験活動等の実施には弛まぬ行政努力のあとがみられる。今後の青少年の健全育成で最も肝要なことは、子どもたちの居場所をつくってやることである。子どもの居場所のなさは、身体的苦痛を伴い、自己存在感、自己喪失感を抱かせ、利他的で衝動的な傾向に陥り易く問題行動の要因となる。

子どもの居場所づくりのもつ意義は、体験活動等を通して、大人と子ども、子ども同士の間で相互扶助、相互承認的関係性を構築し、個々の子どもたちにかげがえのない自己存在感や自己肯

定感を抱かせる教育作用がある。学校・家庭・地域三者が連携を密にユイマール精神を呼び起こし、子どもたちが豊かな心と夢や希望を持って生きていける環境づくりが大切である。そのような心のよりどころとなる安らぎの場や活動拠点を築くことが、健全な青少年育成のキーワードとなる。その観点に立ち「学校支援地域本部」の設置を早め、その機能化を望む。特に、「気になる子どもたち」の居場所づくりは喫緊の課題である。

#### 施策5 家庭・地域の教育機能の活性化

社会教育から家庭教育に至るまで多岐にわたる諸施策の展開は、並大抵なものではなく、計画・実施が「ほぼ妥当なB」判定にまで到達できたことは好ましいことである。

ところで、沖縄県国際交流・人材育成財団や沖縄国際センターには、毎年多くの外国人が研修で訪れる。成人の教育活動の一環として、海外研修員と沖縄の人々との交流の場を設定し、相互の地域の人づくりやふるさとづくりに生かせる事業展開はできないか、検討すべき課題である。

家庭・地域の教育機能の活性化は、沖縄の夜型社会の是正にある。青少年の夜9時以降の外出を防止することが、家庭学習の充実、読書の奨励、親密な人間関係の構築、青少年の非行防止等多くの相乗効果を生む。夜型社会の是正は、難題ではあるが、県民ぐるみで社会運動として取り組む必要がある。

#### 施策6 健康な体をつくり県民が輝くスポーツの振興

県民が全国に伍してスポーツで活躍する姿はあっぱれであり、夢と希望と自信と誇りを与えてくれる。これは、スポーツ振興にかける行政努力の賜物である。スポーツの意義は、奮励努力、忍耐力、克己心、向上心などを培い、人間に生きる活力を与えてくれる。

今後のスポーツの振興では、施設設備の整備・充実と指導者の養成・確保、さらには、県民がいつでも、どこでも、気軽にスポーツを楽しめる環境づくりが尚一層望まれる。

#### 施策7 豊かな感性を育む文化の振興

県立博物館・美術館の建設等文化施設の整備・充実に向けての行政努力は高く評価できる。今後とも、郷土の文化財の保存・整備を図るとともに、芸術文化に親しみ、活用する環境づくりに邁進してほしい。郷土の歴史・民俗・文化を知ることが、アイデンティティーの確立や国際理解につながる。それ故に、国際化はまずは、足元からといえよう。そういう観点に立つならば、郷土学習の教育課程への位置づけをもっと強化すべきである。

最後に、今回の事務の管理及び執行状況の点検及び評価は、行政の説明責任を果たす上でも、また、県民の声を行政に反映し、開かれた教育行政を推進する上でも大変望ましいことである。今後とも、県民一体となった行政施策のさらなる充実・推進に期待する。



## 沖縄県教育委員会の点検・評価について

### 1 施策策定について

施策策定にあたっては、新たな方向性を打ち出すために成果指標は重要であり、そのデータが示されていることは評価できる。しかし、教育関係者、保護者等が分かるようにより具体的な資料が必要と思われる。

学力については、「夢・にぬふあ星プランⅡ」、生徒指導については、「生徒指導の推進について」で具体的に展開されていると思うが、より具体的なPDCAが要求される。

施策の展開については、各施策項目ごとに別冊の推進計画を作成し、県民全体が積極的に係わることのできるよう具体化を図ることが必要である。県民全体が係わることによって、より効果は表れ、目標を達成できるものとする。

### 2 潤いと生きがいのある生涯学習社会をめざして

生涯学習機会の拡充に努め、体制の整備の推進を図っていることは評価できるが、生涯学習センターの環境整備の拡充、さらに機能の充実を図る必要がある。

社会に生かせる生涯学習評価システムの推進については、具体的な施策の展開を図る必要がある。

### 3 自ら学ぶ学習意欲を育て学力の向上をめざして

授業の工夫・改善として、一人一人の子どもが確実に分かる授業であってほしい。

学校での取組として、たとえば、すべての教師が年3回の授業研究、公開授業を展開し、授業の工夫・改善に努める。研究会の組織としては、あまり活発であるとは思われない。大学の協力を得ながら地区等で教科等授業研究会を組織し充実させ授業の工夫・改善に努める必要がある。

行政としては、一人一人の教師が授業につまづいている場合が多々あると思われるので、いつでも相談できる行政の支援組織について検討してもらいたい。

学校においては、学習指導の工夫・改善（質）は当然のことであるが、授業時数（量）の確保も確実に把握しておく必要がある。

また、子どもの学習態度の育成は、学校だけでなく、家庭における学習時間の確保、学習の仕方等の充実を図ることが大切である。

学力は、読・書・算、教科の基礎など各学年として必要な基礎学力、関心、意欲、思考力、判断力、表現力などの機能的学力、主体的、創造的な課題解決能力、学び方、ものの考え方などの課題探求能力を育みながら、基本的な生活習慣、社会性、さらには社会的行動力を培うことも忘れてはならない。

「明日の予習をする」「自分で勉強する」「復習をする（宿題をする）」など、家庭学習の習慣を形成して自主的、自発的な子どもに変える必要がある。

施策の徹底を図り、学校、家庭、地域、行政、県民全体が積極的に取り組めば確実に学力は上がるものとする。

#### 4 豊かな心を持ち、夢・実行力のある青少年の育成をめざして

生徒指導は、青少年の問題行動の対策といった消極的な面にあるのではなく、積極的にすべての児童・生徒のそれぞれの人格のよりよき発達をめざすことから、県および市町村の体験活動事業参加数、学校支援ボランティア活用校の増加は評価できる。さらなる展開を望む。

施策として健全育成については展開されているが、保護育成の面から施策が少ないのは問題ではないか。「生徒指導の推進について」等で保護育成も展開されており、さらには地域で実施されている「健全育成大会」の内容は、ほとんど保護育成であることからしても施策としてより多くの項目を展開する必要がある。たとえば、青少年問題行動の兆候を早期に発見対処するため、学校、警察、行政、関係機関が情報提供や協力依頼のできる体制の強化、問題行動防止教室の開催、促進などである。

#### 5 家庭・地域の教育機能の活性化をめざして

子どもの人格形成の基礎は、家庭にある。親は自らの責任において、基本的な生活習慣、社会規範を子どもに育む義務を負っている。そのことから社会教育指導者養成講座、家庭教育講座・研修会の実施については、市町村単位で大いに展開してほしい。研修会等は実施されているが実際に困っている家庭は相当数あると思われるので、家庭まで浸透するような施策を展開する必要がある。

たとえば、子育てについての体験や悩み等の情報交換の場の整備、拡充、あるいは、子育てに関する学習システムの充実などである。

#### 6 国際社会に生きる人材及び情報活用能力の育成をめざして

国際社会に貢献できる国際性や創造性に富む人材の育成の面から小学校における英語教育の実施・充実、コンピュータの活用能力の育成については評価できる。

現在、コンピュータ活用能力の育成については、学校が主体となって実施しているが、より効果を上げるためには、家庭・地域で積極的に取り組める方策が必要ではないか。

## 沖縄県教育委員会の点検・評価について

### 1. 潤いと生きがいのある生涯学習社会の形成

政策目標1に関する取組は概ね良好な成果を挙げている。特に「おきなわ県民カレッジ」の積極的な取組や成果指標2に看取される講座修了者数の飛躍的な伸びは特筆に値する。

それ故に今後は、学習を修めた県民の力を県政や県民生活へと環流する方策が期待される。学習環境の醸成に加え学習成果の活用を企図し、沖縄県生涯学習推進本部の機能強化をなすとともに、市町村における学習資源のネットワーク化及び学習成果の共有資源化を目的とした全県的連絡体制の整備をなし、より一層の生涯学習推進体制を構築されたい。

### 2. 自ら学ぶ意欲を育む学校教育の充実

政策目標2については、残された課題が少なくない。6つの施策項目を見てみると、(1)豊かな心を培う教育の推進、及び(2)確かな学力を身につける教育の推進において、その必要性の高さを認識しつつも、取組の実態が「概ね取り組んだ」に留まっている。

教育という事業は俄に成果の挙がるものではなく、真摯な取組の連続にこそ来るべき日の成果が顕れるものである。短期的な成果の高低に拘わらず、これらの項目はいわば教育事業の枢軸と認識し、今後は教育委員会の総力を挙げて取り組まれることを強く希望する。

### 3. 国際社会に生きる人材及び情報活用能力の育成

政策目標3については、成果指標を見る限り、概ね良好な成果を修めている。しかしながら、英語運用能力の向上やICTの活用能力は、或る意味で、目標達成に係る基礎的なスキルに留まるものであることを認識されたい。

施策の概要に見られる「本県における地域特性を生かした学術・平和・国際交流拠点の形成」や「国際性豊かな視野の広い人材」の育成を期するためには、異文化理解と同時に自国や沖縄への理解を推進するプログラムの創設が必要となり、情報活用能力で言えば、情報化社会そのものへの理解を促すような取組が不可欠であると言えよう。

### 4. 豊かな心を持ち、夢・実行力のある青少年の健全育成

政策目標4は、掲げられた成果指標について、十分な達成状況を得ていると言える。

今後は、青少年の地域体験活動や放課後子ども教室といった取組が、具体的にどのような「豊かな心」をもたらし、如何なる「夢」を掲揚させ実行へと移し得るのか、政策目標に対する各施策及び各指標の実効性を検証しつつ、さらなるステップへと邁進されたい。

### 5. 家庭・地域の教育機能の活性化

政策目標5については、概ね良好な成果を挙げている。しかしながら、成果指標2「社会教育指導者等養成講座の受講者数」については、前年度からの改善は見られるものの、目標を大きく下回っていることが課題とされる。

社会教育指導者の役割は広く、且つ、重要性は高い。その活躍は、政策目標1や2、4、

6、7へと波及するものであることを考えると、今後の取組における最重要課題のひとつであるとの認識を持たれたい。

#### 6. 健康な体をつくり県民が輝くスポーツの振興

政策目標6については、成果指標2及び3に関して課題を残す結果であるものの、概ね良好であると言える。

学校体育施設は、当該校の本務利用が一義的な目的であるが、施設の有効利用は県民の健康やスポーツの振興を推し進めるものであり、目標達成に向けた努力を期待する。

また、沖縄県スポレク祭への参加人数も、大きく目標を下回っている。平成17年度から大幅な減少傾向が続いていることから、当該事業に関しては有する意義や役割の再考を含む、抜本的な見直しが必要と考える。

なお、競技スポーツの推進に関しては、用いた成果指標そのものの有効性に疑問が残る。「推進本部」の設置による体制強化の取組は評価されるものであるが、競技スポーツの振興である以上、競技人口数の推移や競技者の成績そのものを指標とすべきであると考え。

#### 7. 豊かな感性を育む文化の振興

政策目標7にあつては、(2)文化施設の整備・充実と芸術文化活動の推進において秀逸な成果が挙げられている。国立劇場おきなわや県立博物館新館・美術館事業を通じた芸術文化活動の一層の充実を図られたい。

なお、(1)文化財の保護と活用については史跡の整備が目標値に至っていない。緊縮財政下にあつてはやむを得ない状況と解されるが、歴史資源は沖縄県を構成する重要な要素であることに鑑み、一層の取組を期待したい。

#### 8. 新しい時代を展望した教育行政の充実

政策目標8は、成果指標を見る限り、概ね良好な取組と言える。新しい時代を展望した教育行政の充実は最重要且つ喫緊の課題であり、下記の点に留意し、引き続き総力を挙げて取り組まれることを期待する。

教育行政における「教育から学習へ」というコンセプト転換により、多くのアクターが教育ガバナンスの舞台へと導かれるようになった。しかしながら、適切な操舵と原動力の欠落により、全国的に、学校教育を支える基礎システムの脆弱化が進行している感がある。

本県においてはこれまで、PTAや公安と言った関係諸団体との意見交換の機会を設けてきたことは大いに評価される場所であるが、今後においては、首長部局各部はもとより、関係機関の範囲を拡大するとともに、意見交換の頻度を高める努力が望まれるところである。

なおその際、意見交換の機会を以て関係者の意向を「敬聴」することが行政の姿勢であるかの潮流もあるが、多くのアクターが参入すればするほど、教育委員会による適切な操舵が必要となる。各種の意見交換会は、「敬聴」の機会であるとともに、集積された専門性に基づき教育委員会が掲げたコンセプトへの理解や協力の「要請」をなす場として捉え、教育委員会のリーダーシップを遺憾なく発揮する機会としてこそ活用されたい。

## 【付言】

最後に中長期的な検討課題として、蛇足ながらの鄙見を開陳したい。

### 1) 点検・評価の在り方について

一般行政の場合と比較して、教育行政の点検・評価は困難である。教育の成果は数字として表しにくく、且つ、成果そのものが俄に得られないからである。従って、今後の点検・評価においては、各施策の質の向上度や施策の継続度と言った、中長期的に得られるであろう成果のプロセスをも加味した指標を設定する必要があるのではないかと考える。

ただしその場合でも、決して数字を軽視してはならない。教育の成果は数字にならないのではなく、数字のみでは表せないと解すべきであり、成果の数値化に向けた最大限の努力は、県民の理解はもとより、県民からの協力を得る貴重な契機であると認識されたい。

### 2) 客観的な施策策定の必要性について

行政改革の論議に際し、教育委員会不要論の声は一層の高まりを見せている。その要因のひとつに、教育行政の不可視性があると言えよう。教育行政には、一般行政とは異なる専門性が確かにある。しかしながらその十分な説明がなされていないため、見えないのである。本県においてもそうした状況が在りはしないか。

例えば、現在の政策目標にある「潤い」や「生きがい」、「豊かな心」や「県民が輝く」などのレトリックは、その客観的な共通理解を得られるとは言い難い。上記した数値化の努力は、同時に、政策目標や施策自体の精緻化を求めるものであり、その対応関係が誰からも理解されてこそ、教育委員会の専門性は明瞭なものとなろう。

教育行政の専門性に関する説明努力（責任）は不断に行われるべきであり、そのためには、あらゆる人々によって理解可能な目標・施策の策定が不可欠な条件と言える。

### 3) 沖縄県の基礎的教育課題について

最後に、沖縄県の基礎的な教育課題について言及したい。教育とは本来、万事万物の在りようを理解させることで、そこに生きる自身の在り方を不断に点検する力を涵養する行為である。その点において、沖縄県の状況は厳しい課題を抱えていると言わざるを得ない。

飲酒運転者に他者が見えているか。2車線を塞ぐ併走は後続車両を認識しているか。卑近な例をとってしても、「他者の不在」＝「自己点検の欠落」は憂慮すべき状況と言える。

近年、生涯学習社会の推進に際し、「社会の要請」への留意が叫ばれている。それは、個々人の自主性を前提とした生涯学習社会の構造的な陥穽（規律や規範習得プロセスにおける強制力の欠如）を克服しようとする当然の帰趨であると言えよう。

「社会の要請」とは必ずしも高次の要請ではなく、規範意識や勤勉性の醸成を含む県民のソフト面におけるインフラ整備であると言えよう。今後、本県が「社会の教育力」によって子どもたちを未来へと導こうとするのなら、まずもっての基礎作業として、学習という任意の行為の裡に如何にしてこうした要請を内在させるのかが切実に問われてこよう。

以上は、沖縄県民が誰からも信頼され世界に向けた発展をなすための礎であると考ええる。苦言を呈したが、ともに発展を願う県民の一人として、その発展に責任ある関係者の一人として、微力ながらの協力を準備しつつ、今後の取組に大いなる期待をする次第である。